



こんにちは。笹の墓標展示館 再生実行委員会です。

北海道、朱鞠内の旧・光顕寺は戦中の強制労働による死者を弔いその位牌を安置してきました。その後笹の墓標展示館となり、戦争と植民地支配の歴史を伝える展示館として東アジアの人々の出会いと共同の学びの場をつくってきました。2019年、建物倒壊のおそれのため展示館の再建をめざす実行委員会を発足しました。このニュースレターではみなさまに再生のための活動やその他の情報を定期的にお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いいたします！

笹の墓標再生募金目標達成！募金は続きます！

3000万円の目標で進められてきた募金活動は、2021年9月17日、目標の3,000万円を突破し、募金してくださった方々は2,000人を超えました。2020年1月にお願ひ状を送してから1年9ヶ月で目標を達成することができました。日本各地、韓国、ドイツ、アメリカからも支援がありました。厚くお礼申し上げます。しかし、建設資材の高騰、事務宣伝費の費用が予想を超えたため、募金目標を3,500万円として、引き続き募金を継続することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

秋の強制労働犠牲者追悼会を開催しました

コロナの流行が収まらないため、今年の追悼会は、10月10日、再生実行委員会のメンバー15人の参加により展示館前庭で実施しました。聞光寺住職佐藤智眼師が導師を勤めて読経がありました。午後から実行委員会を庫裏で開催し、これからの再生活動を話し合い、募金目標の増額、来春からの再建活動について話し合われました。

韓国済州島で東アジア共同ワークショップ

10月29日から11月1日、韓国チームの主催により「2021 東アジア共同ワークショップ@済州」が開催されました。日本からの参加はできませんが、29日の開会式には ZOOM で共同代表殿平善彦さんの講演「市民が創っていく東アジアの平和」が行われ、講演後にはオンラインの交流が夜遅くまで続きました。来年こそは、朱鞠内で開催を実現させたいですね。



来春、庫裏(くり)修繕活動を開始します

再生活動への募金は主に4つのテーマに使用されます。

- ①笹の墓標展示館の再建 ②庫裏(宿泊施設)の改修
- ③和解と平和の森の整備 ④事務宣伝費

来春、雪解けと共に、庫裏の修繕と和解と平和の森の整備に取り掛かります。専門家の指導を受けますが、ボランティアを中心にした修繕、整備活動を行います。詳細が決まりましたらお伝えしますので、朱鞠内にお出かけくださり、再生活動に参加してください。お待ちしております。

あなたのまちで巡回展を開きませんか？



展示館が倒壊して展示品を皆さんに観ていただく機会が無くなったままですが、新たな展示館ができるまで、各地で強制連行の歴史を学んでいただける「笹の墓標展示館・巡回展」を行っています。

朱鞠内、旧光顕寺で発見されたご位牌、そしてご遺骨が納められていたお骨箱も実際に見ていただけます。10月1日から14日まで滝川市・坂の上の美術館にて、そして10月16日から月末まで旭川市・三浦綾子記念文学館と旭川こども富貴堂にてそれぞれ巡回展を行いました。さらに、12月初旬には帯広市・本願寺帯広別院で今年3回目の巡回展が開かれます(詳しくは下記)。歴史の事実と出会うことで、強制労働に思いを馳せてください。好評開催中です。引き続き、札幌市、室蘭市、紋別市でも計画中です。合わせて講演会や出版物の販売、映画会の開催も可能です。展示品を積んであなたの街にも出かけます。ぜひ巡回展を計画してくださいませんか。

お問い合わせは事務局 info@sasanobohyo.com まで。

あなたの街で「笹の墓標展示館」巡回展を開きませんか？

強制労働の歴史を学び、史実を伝える意味は大きいです。
笹の墓標展示館の展示品を実際にご覧いただき、知っていただく機会を。



- 同時に講演・映画上映などのイベント開催も可能です。
- 展示品は会場の規模に合わせてこちらから提案いたします。
- 展示品はワゴン車一台で運べます。運搬もお任せください。
- 北海道内をはじめ全国どこでもお伺いしますのでご検討ください。
- お問い合わせは info@sasanobohyo.com まで Eメールにてどうぞお気軽にご連絡ください！

写真：金英鉉

次の巡回展：

帯広市

2021 年
12月5日～11日

本願寺帯広別院

帯広市東3条南5丁目3番地

共催：笹の墓標展示館再生実行委員会
協力：本願寺帯広別院

連絡先：十勝実行委員会
事務局長 佐々木あずさ
090-9518-6681
azu-azu@hotmail.co.jp

「笹の墓標展示館・旧光顕寺」はこれまで「東アジア共同ワークショップ」の活動拠点として出会いと学びの場を提供してきました。1997年から続くワークショップの意義を知ってもらうため、参加者に思い出を綴ってもらいます。今回の寄稿者は、2002年2月、朱鞠内笹の墓標展示館にて開催された「冬のワークショップ」に参加した。川口とも子さんからの寄稿です！

東アジアワークショップの思い出

川口（旧姓 毛利）とも子

当時、私は保育士を目指す名寄短大の学生だった。先生に「ワークショップ行ってみないか？毛利には合うと思うし、人生変わると思うぞ」と言われた事がきっかけ。1回は断った気がするが、何度も声をかけられ「そこまで言うなら1回行ってみるか」と友人と参加したのを覚えている。それ以来すっかり魅了され、短大の友人や後輩たちや妹、そして父親とも参加させてもらう事になる。

中でも一番思い出深いのは、初めて参加した2002年冬のワークショップ。

雪下ろしの後には、交流の時間もあり、私や友人たちがそれぞれつたない朝鮮語で自己紹介した時に、喜んで貰えたことが嬉しかったのを覚えている。このようにみんな、私たち名寄短大生をあたたかく迎えてくれた。

まず感じたことは、今まで強制労働の歴史は教科書で習ってこなかった（歴史の勉強は、テストの為にワードだけを暗記すること等、あまり意味のないものだったし、戦時中の加害の歴史についてはあまり勉強してこなかった）と痛感した。

次に、在日コリアンの人たちに会ったこと。彼ら、彼女らの言葉は私に気づきを与えてくれる事が多く、視野が広がった気がした。在日コリアンという人達がいって、こんなに理不尽なことで苦しめられ、様々な複雑な想いを抱えながら生きているのだということをワークショップで初めて知った。この出会いは、私にとっては大きい。

育った環境や立場、価値観も違う人達がたくさん集まれば、それぞれ意見も違うのは当たり前。時には対立するような意見もあった。それでも、互いの意見を聴き合うことがいかに大切かも改めて感じた。

そして、夜は、ワークショップの名物とも言える、シュマリナイトと名付けられたライブ。民族、国籍、性別、年齢なんて関係なく、みんなごちゃごちゃ。1つの輪になって肩を組んで「上を向いて歩こう」を歌い、笑い。「イムジン河」を

歌い、在日の子が涙し。それを見て私達までもらい泣き。そしてまた夜が明けるまで飲みながら、過去と未来を語る、そんな熱い夜だった。

別れの朝には、みんなとの時間を振り返り、朱鞠内での再会を誓うと何故か涙が溢れてくるのだった。雪下ろしだけでなく、議論したり、ご飯を作って食べたり食器を洗ったり…一緒にかけがえのない経験を共有し、関係が築けたからかもしれない。それぞれ生きる場所は違っても、同じ空の下。繋がっていると思うと、自分もまた頑張ろうと思えた。

…あれから約15年。結婚し、3児の母となって慌ただしい生活を送っていた。そんなある日、たまたまつけたテレビで「旧光顕寺倒壊の危機」を知る。ずっと朱鞠内のことを忘れていたわけではないが、少し離れていた私を、旧光顕寺と殿平さんたちが呼び戻し、繋いでくれた気がする。

そして、2019年秋の集いに夫と子ども3人と一緒に参加。久々の嬉しい再会もあったし、はじめまして、の方もいたが、変わらずあたたかく迎えてくれた。そういえば、学生最後のワークショップの時に「ワークショップに理解のある人と結婚して、その人とまた朱鞠内に来るのが夢です」と言っていた事があったなあーと、ふと思い出し、実現できたなあ、と更に嬉しくなった。また、新たなワークショップ家族ができたことも嬉しく、本当にありがたい。おかげで、子どもたちもみんな朱鞠内に行くのを楽しみにしている。

今の夢は、仲間と共に笹の墓標展示館を再建し、「和解と平和の森」をつくること。人と人の出会いの場、異文化交流の場。いのちをみつめ、いのちの尊さを感じられるような場所を、一人でも多くの人たちの力を借りてつくりたい。常に東アジアの平和を願いつつ…

最後に、文明先生へ。ワークショップに出会わせてくれて、本当にありがとう。先生の蒔いてくれた希望と平和の種、少しずつだけど、芽を出して育っているよ。先生に直接の恩返しは出来なかったけど、今、笹の墓標展示館の再建に、私も微力ながらも協力できたら、少しは恩返しになるかな。どうかこれからも、私達の活動を見守っててください。

写真

1：2020年12月の雪下ろしにて。

写真提供：金英鉉

2～4：例年の「冬のワークショップ」でのいろいろな場面。写真提供：道又嘉織

5：2006年浅茅野遺骨発掘で汗を流すありし日の鈴木文明先生

